

今号は事務担当 病院長補佐に寄稿いただきました。

昨年の4月から病院事務部長および事務担当の病院長補佐を拝命しております前島一実です。1年前に自分が赴任した時は、最初の緊急事態宣言が出される直前で、院内外での感染対策が徹底されだした時期でした。その後も張り詰めた日々が続いたまま早や1年が過ぎてしまいました。あらためて、事務部門の責任者として、病院運営を支える仕事を精一杯担ってまいりますので、よろしくお願いします。

さて、自己紹介を兼ね、趣味などをご紹介させていただきたいと思います。出身は茨城県で、地元の筑波大学に就職して以来、これまでいくつかの機関・部署で事務職を経験してきました。国立大学では、筑波大学のほか信州大学、熊本大学、秋田大学、そしてこの徳島大学で勤務のご縁をいただきました。

最近10年以上は、2～3年ごとの人事異動のたび、遠距離の引っ越しを繰り返しており、そうした中、赴任した土地のローカルな名所、特に「道の駅」や日帰り温泉をあちこちめぐることが楽しみにしています。思い立ったら出かけられる気軽さがよくて、転勤生活の醍醐味でもあると思っています。

徳島でも、コロナ禍が落ち着いたなら、ぜひ車で足を延ばしてみたい場所はいくつもありますが、遠出を控えつつ、これまで自分が何度か訪れているのが「眉山」です。比較的空いており、実はよく歩いて登っています。徳大病院からの間近な眺めにはいつも癒されていますが、山頂からの眺望も本当に素晴らしいと思います。標高300メートル足らずでは、あまり登山とは言わないのかもしれませんが、運動不足の自分にとって、眉山登山は程よい負荷であり（ロープウェイの下を通るルートは結構きつい！）、頂上に着いて、遠近の景色を見ながら休憩する時間がとても贅沢に思います。歩いて登るルートがいくつかあり、山すその様々な場所からの踏破を目指すものも楽しみの一つです。

徳島のことを語るのもまだまだ不束ですが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻をお願いします。

事務担当 病院長補佐 前島 一実



城山の頂上から見た眉山
(令和2年4月撮影)

このコーナーでは、病院で取り組んでいる様々な事業を紹介します。

当院では、平成30年より医師、看護師、理学療法士からなる「排尿ケアチーム」が、排尿ケアの質向上を目指して活動していました。令和2年4月より、排尿ケアチームに医療ソーシャルワーカー、事務職員が加わり、「排尿ケア管理室」を開設し、更に活動の場を広げておりますので、ご紹介いたします。

排尿ケア管理室では、不必要な尿道カテーテルを早期に抜去し、患者さんの排尿自立の獲得を目的としています。院内の感染症の約4割が尿路感染、その約7～8割が尿道カテーテル関連とされており、カテーテル抜去が尿路感染の予防になります。また、尿道カテーテルは、患者さんの苦痛にもつながり、尿路結石や尿道損傷、萎縮膀胱といった合併症も生じるため、長期留置を避けることが大切です。

対象となるのは、尿道カテーテル抜去後に排尿困難や頻尿、尿失禁といった下部尿路症状が生じた患者さんやカテーテル抜去後にこれらの症状が生じると予想される患者さんです。カテーテルを留置したことがない患者さんでも排尿のことでお悩みの方がおられましたら、ご相談ください。



排尿ケア管理室
スタッフ写真

具体的には、病棟の看護師が対象者を選出して、排尿日誌の記載や残尿測定を行い、排尿ケア管理室に介入を依頼します。毎週1回、木曜日の午後に排尿ケア回診を行っており、管理室のメンバーと病棟看護師とで患者さんの状態を診察し、多職種で包括的ケアを行い、排尿自立を目指しています。排尿誘導や自己導尿の指導、リハビリ、尿失禁に対する骨盤底筋トレーニング、薬物療法や手術など患者さんに応じたケアや治療を行っています。排尿ケアは、尿路感染の防止、早期の患者さんの回復、さらに入院期間の短縮につながります。排泄の問題は、人間の尊厳に係わる大切なことです。お悩みの方々のQOL向上や尿路感染の減少を目指して、日々活動していますので、お気軽にご連絡ください。

排尿ケア管理室 室長 山本 恭代

NEWS・イベント大募集！

「Harmony」は、病院職員を対象に、院内情報の伝達や職員のコミュニケーションの活性化などを目的として発行しております。行事やイベントなどのNEWSや院内で周知してほしいTOPICSなどがありましたら、どんどん病院総務課広報・企画係（bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp）までお寄せください。また、「Harmony」で取り上げたら良いと思うテーマなど、ご意見・ご提案お待ちしております。



病院新採用職員のご紹介

ER・災害診療部
新井 悠太(特任助教)



令和2年度よりER・災害診療部門の特任助教に就任いたしました新井悠太と申します。徳島大学病院、徳島市民病院、徳島赤十字病院での勤務を経て、たくさんの先生方とのご縁やご配慮があり、現職に至れたことはいくら感謝してもしきれません。これからもいろいろな方々との出会いやつながりを大切にしていきたいと思っております。

現在、連絡橋を行き来しつつ徳島県立中央病院と当院の双方で勤務しております。放射線科診断専門医、核医学専門医としての画像診断やIVR(画像下治療)とICUでの集中治療、急性期医療をうまく融合し、患者さまを全身にわたって診療し、よりよい医療を提供できることを目標としています。まだまだ未熟で至らぬ点は多くありますが、地元徳島県の医療に少しでも貢献できるように日々精進してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

口腔外科
鎌田 久美子(助教)



令和2年度より徳島大学病院口腔外科助教として着任いたしました鎌田久美子と申します。生まれも育ちも徳島で、徳島大学歯学部卒業後、徳島大学病院での臨床研修を経て、口腔外科に入局、現在に至ります。

診療内容としては、抜歯、インプラント、嚢胞、口腔腫瘍、顎顔面外傷などをはじめとした様々な外科処置と入院管理などを行っております。

最近の休日は家で料理をしたり、録画しておいたテレビ番組を見たりして過ごしておりますが、趣味は旅行・食べ歩きですので、可能になれば、いろいろなところに行きたいと考えております。

今後も口腔外科医として専門性を磨き、少しでも多くの患者さんに高度で安全な医療を提供できるように精一杯頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

内分泌・代謝内科
辻 誠士郎(医員)



令和2年度より徳島大学病院内分泌・代謝内科に入局しました、辻誠士郎と申します。昨年までは京都市伏見区にある市中病院で初期研修を行ったのち、腎臓内科に4年間所属しておりましたが心機一転、生まれ故郷である徳島にて内分泌・代謝内科へ転科することとなりました。糖尿病治療や内分泌疾患は奥が深く、学ぶべきことが多く勉強不足を痛感しておりますが、皆様方に丁寧にご指導いただきなんとか日々を過ごしております。

徳島県は糖尿病死亡率が全国でもワーストに近い状態ですので、少しでも地域医療に貢献できるよう、患者さんに寄り添った全人的医療を心がけて参りたいと思います。まだまだ至らぬ点も多いですが、今後ともよろしくお願いいたします。

検査部
山口 夏美(臨床検査技師)



令和2年4月より入職し、医療技術部・臨床検査技術部門・検査部へ配属となりました、山口夏美と申します。検査部では採取した血液や尿などを調べる「検体検査」と、患者さんに電極などを装着して直接調べる「生理機能検査」を行っており、各部門に分かれて正確な検査結果を迅速に提供しています。私は生理機能検査の中でも超音波検査を担当しており、超音波センターで心臓や頸動脈、乳腺の超音波検査をしています。学ぶことが多く、日々検査を通して様々な疾患について勉強させていただいております。

今後は超音波検査に限らず、様々な検査についての知識を深め、患者さんの病態把握を正確にできる臨床検査技師を目指したいと思います。

まだまだ至らない点も多々ありますが、日々精進して参りますのでよろしくお願いいたします。

西病棟6階
岡部 優衣(看護師)



令和2年4月徳島大学病院へ入職し、西病棟6階に配属となりました。当病棟は、呼吸器・膠原病内科病棟であり、主に肺癌に対する化学療法・放射線治療を行っています。化学療法が安全に投与でき、治療に伴う患者さんの心身の負担に対して看護を行っています。全身性エリテマトーデス等の膠原病の患者さんに対しては、ステロイドや免疫抑制剤が確実に内服できるように援助を行うとともに副作用の出現がないか観察しています。看護する中で患者さんから「楽になった。ありがとう。」と感謝された時には、看護師として働くことができて良かったとやりがいを感じています。

まだまだ分からないことばかりですが、優しく丁寧に指導してくださる先輩方に支えられ頑張っています。先輩方のように患者さんの体だけではなく心までケアでき、ご家族にも寄り添う看護を提供できる看護師をめざしたいと思います。これからも積極的に学び、日々精進して参りますのでよろしくお願いいたします。